

症例は51才女性。18才の時、小脳腫瘍の剔除術を受け、軽い平衡障害があった。2-3年前から背部痛があり、62年5月から歩行が更に不安定となったため、62年8月に当科を受診した。初診時、軽い平衡障害などの症状は認められたが、脊髄症状は明らかではなかった。経過観察をしていた所、12月に Th8 以下の軽い痛覚低下が認められたため、脊髄腫瘍を疑った。myelography および CT では Th8 level の硬膜内髄外腫瘍の所見が得られた。手術によりくも膜のう胞と判明し、のう胞剔除を行い、術後は背部痛が消失し歩行がやや改善した。

A-56) Transoral approach による Atlanto-axial dislocation の1手術例

村石 健治・津村貢太郎
赤井 卓也・甲州 啓二 (国立水戸病院)
関部 真・高橋慎一郎
阿部 弘 (北海道大学)

Atlanto-axial dislocation に対する transoral approach による1手術例を報告する。症例は14歳男性で、主訴は右下肢と左手指しびれ感である。昭和62年4月、転倒して臀部を打撲、右下肢しびれ感が出現。しだいに左手指しびれ感、左上肢の麻痺が出現してきたため昭和63年1月28日当科入院となった。神経学的には、四肢特に左上肢の筋萎縮が著明であり、左片麻痺と、左2-4指及び右下肢のしびれ感、右 Th6 から下位の温痛触覚の低下を認めた。左上肢、両下肢で反射亢進が見られ、振動覚は左上肢、右下肢で低下していた。小脳及び脳神経症状は存在しない。頭頸部単純及び断層撮影では Atlanto-axial dislocation がみとめられたが、環椎軸椎間の可動性はなく、Clivo-axial angle は 100° で他に Platybasia と Basilar impression を伴っていた。3月9日全麻下に transoral approach にて C₂ 椎体及び歯状突起摘出術と C₁-C₃ 椎体間固定術を行った。

A-57) 軸椎椎体骨折の3例

宗本 滋・石黒 修三 (石川県立中央病院)
木村 明・若松 弘一 (脳神経外科)
大日方千春・東馬 康郎

軸椎椎体骨折に頭部外傷を伴った2例と頸部痛のみを訴えた1例を報告する。3例とも交通事故にて受傷した。

症例1: 29歳男性。前頭陥没骨折、脳挫傷がみられ、頸椎X線撮影で歯突起が前傾していた。CT スキャンで軸椎椎体骨折がみられ、頭部外傷に対し手術を行った後、2カ月間臥床頸部固定し、障害なく退院した。

症例2: 48歳男性。右頭頂陥没骨折と歯突起の前傾が

みられた。CT スキャンで軸椎椎体骨折が確認され、頭部手術後、2カ月間臥床頸部固定で右手掌しびれのみを残して退院した。

症例3: 35歳女性。右耳介後方皮下血腫と頸部痛のみで歩行で来院した。頸椎断層撮影、CT スキャンで軸椎椎体骨折を認め、1カ月間臥床頸部固定し障害なく退院した。

結語: 1. 3例とも軸椎椎体骨折による症状は軽度であり、診断には注意を要した。2. 診断には頸椎X線撮影、断層撮影、CT スキャンが有用であった。3. 臥床頸部固定で良好な結果を得た。

A-58) Postoperative Spondylolisthesis

黒瀬 輝彦 (鳴和総合病院)
脳神経外科
島 利夫 (島脳神経外科)
医院

変形性腰椎症による神経根症状や間欠性跛行に対する外科的治療として、posterior decompression (laminectomy, facetectomy) が行なわれている。しかしながら、posterior decompression 後に発生する spondylolisthesis は10-30%に認められる。更に、術前に spondylolisthesis を認める場合には、術後60-70%に spondylolisthesis が増悪することが報告されている。従って、posterior decompression に加えて spinal fusion の必要性が報告されている。

今回、経験いたしました変形性腰椎症3例は、いずれも65才以上であり、術前に軽度ながら spondylolisthesis が認められ、後方切除範囲もほぼ同じでしたが、1例に symptomatic postoperative spondylolisthesis が発生し、spinal fusion を必要とした。

Spinal fusion の適応、その時期 (primary に、あるいは secondary に行なうべきか) に関して論議があり、統一した見解がみられていない。この点について検討したい。

A-59) 頸部椎間板障害における手術

岩崎 喜信・秋野 実 (北海道大学)
飛驒 一利・小柳 泉 (脳神経外科)
阿部 弘
野村三起夫・斉藤 久寿 (札幌麻生脳神)
経外科病院

我々の施設において、過去11年間に経験した頸部椎間板障害の手術例は241例である。その内訳は soft disc 73例、spondylosis 168例であった。

障害レベルでは soft disc は単一椎間板障害が多数